

## 令和7年度 第2回士別市スポーツ推進審議会 議案

日時 令和7年11月26日（水）

午後6時30分

場所 士別市教育委員会会議室

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

### 3. 議事

#### (1) 第3期士別市スポーツ推進計画について

##### ①第2期計画の検証及び第3期計画の取組の方向性

〈資料1〉

- ・士別市民スポーツ意識調査(一般)結果 〈参考資料1-1、1-2〉
- ・士別市民スポーツ意識調査(子ども)結果 〈参考資料2〉
- ・士別市スポーツ合宿・大会実績 〈参考資料3〉

##### ②第3期計画の骨子の概要

### 4. 報告

#### (1) 士別市児童生徒スポーツ・文化活動地域展開検討協議会の経過について

令和7年5月 士別市スポーツ・文化活動アンケート調査結果の取りまとめ  
対象：小学4～6年生、中学1～2年生、中学校教職員  
〈参考資料4-1、4-2、4-3〉

7月28日 第3回検討協議会

8月28日 第4回検討協議会

10月 士別市中学生のスポーツ・文化活動地域展開推進ガイドライン策定  
〈参考資料5-1、5-2〉

11月6日 先進地視察（安平町：NPO法人アビースポーツクラブ）

11月26日 第5回検討協議会

### 5. 閉会

## 第2期計画の検証及び第3期計画の取組の方向性

## 第2章 生涯スポーツの推進

取組内容 スポーツの価値及び知識の普及			
第2期 事業展開 (計画書P3)	「健康・スポーツ都市宣言」はもとより、国の「第2期スポーツ基本計画」の理念や計画に基づき今後策定される各種ガイドライン・スポーツプログラムなどを広く市民や市内関係団体に周知します。		
評価指標①	士別市スポーツ都市宣言の浸透		
	定性	市民スポーツ意識調査（一般）では、「市民皆スポーツ」の取組を肯定的に捉える回答が94%に達しました。 このことから、多く市民が理念を理解し、共感していると考えます。 また、スポーツを健康づくりや生活の一部として捉える意識が浸透してきていることがうかがえます。	
評価指標②	士別市スポーツ都市宣言の啓発		
	定性	「健康・スポーツ都市宣言」の理念のもとに、令和5年度から新たに「スポーツウィーク」を開催し、世代や競技経験を問わず、誰もが気軽に参加できるウォーキングや様々な体験プログラムの取組を行いました。 また、市民クロスカントリー大会のプログラムには「健康・スポーツ都市宣言」を掲載し、参加者に理念への理解を深めてもらう取組を実施しました。	
成果	成果	平成29(2017)年の士別市民スポーツ意識調査（一般）では、「健康・スポーツ都市宣言」を知っていると回答した市民は42.4%にとどまっていました。 今回の調査では、「市民皆スポーツ」の取組に対して94%が肯定的に回答しており、「健康・スポーツ都市宣言」によるスポーツを通じた健康づくりや生きがいづくりの意識が深まっていることが確認され、一定の成果を上げたと評価できます。 一方、全ての世代に浸透しているとはいえず、参加機会や情報への接点に差が見られることも明らかになりました。	評価
			概ね達成
考察	考察	理念の浸透は一定の成果を上げているものの、取組への関心が薄い層も見られます。 今後は、「健康・スポーツ都市宣言」の理念や「市民皆スポーツ」の取組をより身近な活動として伝える工夫や、参加機会を広げるための仕組みづくりが必要になります。 また、「健康・スポーツ都市宣言」の情報発信として、広報紙やホームページに加えて、SNSやスポーツウィーク等のイベントを活用するなど、多様な発信手段を活用することが必要です。	今後の方向性
			継続

取組内容 総合型地域スポーツクラブの充実										
第2期 事業展開 (計画書P4)	様々な世代の市民が多様な種目のスポーツを実施することができる総合型地域スポーツクラブは、地域におけるスポーツ推進の担い手として重要であり、今後、国などによって整備される中間支援組織と連携して、その質的充実を図ります。									
評価指標①		クラブ会員数(単位：人)								
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	1,396	1,279	1,225	1,055	1,077	1,037	1,012	976	—
	対前年増減	—	▲ 117	▲ 54	▲ 170	22	▲ 40	▲ 25	▲ 36	—
	対前年比	—	91.6%	95.8%	86.1%	102.1%	96.3%	97.6%	96.4%	—
評価指標②		総合型地域スポーツクラブの取組								
定性	各地区のクラブでは、スキー教室や水泳教室などのスポーツ教室を継続的に開催し、子どもたちの運動機会を提供してきました。 また、地区運動会、パークゴルフ大会、卓球大会など、地域の実情やニーズに応じた事業を展開し、世代を超えて参加できるスポーツ活動を実施してきました。 さらに、クラブごとに地域住民との交流機会を設けるなど、地域コミュニティの活性化にも寄与しました。									
成果	会員数は減少しているものの、人口の減少や高齢化などの社会的要因が大きく影響しています。 こうした環境にあっても、各クラブが地域の状況を活かしながら、継続的に教室やイベントを開催し、住民のスポーツ参加機会を確保してきたことは大きな成果です。 このことにより、スポーツを通じた地域住民の健康づくりや交流機会が維持されています。									評価
										概ね達成
考察	人口減少が続く中で、クラブの会員確保や事業の担い手の維持は、さらに難しさを伴うことが想定されます。 今後の状況を見据えて、コミュニティの維持など地域の実情に応じた活動内容の再確認やクラブの持続的な運営体制、各クラブとの連携など多様な視点で検討することが必要です。									今後の方向性
										継続

取組内容 スポーツ機会の拡大										
第2期 事業展開 (計画書P4)	すべての市民がスポーツに親しむ機会を提供するとともに、世界中で同時に開催される「チャレンジデー」への参加など、市民が一体となってスポーツに取り組む機会の創出に努めます。									
評価指標①	一般(おとな)の週1回以上のスポーツ・運動の実施率									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(%)	32.6	—	—	—	—	—	—	37.6	—
	対H29増減	—	—	—	—	—	—	—	5.0	—
	対H29比	—	—	—	—	—	—	—	115.3%	—
評価指標②	オリパラフェスティバルの参加者数(令和4年度まではオリンピックデーラン)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	562	836	789	—	—	278	219	277	262
	対前年増減	—	274	▲ 47	—	—	▲ 511	▲ 59	58	▲ 15
	対前年比	—	148.8%	94.4%	—	—	35.2%	78.8%	126.5%	94.6%
評価指標③	市民クロスカントリー大会の参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	227	206	179	204	193	149	100	70	69
	対前年増減	—	▲ 21	▲ 27	25	▲ 11	▲ 44	▲ 49	▲ 30	▲ 1
	対前年比	—	90.7%	86.9%	114.0%	94.6%	77.2%	67.1%	70.0%	98.6%
評価指標④	士別ハーフマラソン大会の市民参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	—	198	199	—	—	148	164	171	197
	対前年増減	—	—	1	—	—	▲ 51	16	7	26
	対前年比	—	—	100.5%	—	—	74.4%	110.8%	104.3%	115.2%
評価指標⑤	チャレンジデーの参加率(令和4年度終了)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(率)	—	27.1	44.9	16.1	12.1	30.2	—	—	—
	対前年増減	—	—	17.8	▲ 28.8	▲ 4.0	18.1	—	—	—
	対前年比	—	—	165.7%	35.9%	75.2%	249.6%	—	—	—
評価指標⑥	スポーツウィークの参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	—	—	—	—	—	—	413	512	610
	対前年増減	—	—	—	—	—	—	—	99	98
	対前年比	—	—	—	—	—	—	—	124.0%	119.1%
評価指標⑦	総合体育館の延べ利用者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	74,485	71,253	67,116	39,387	38,655	49,878	57,660	60,043	—
	対前年増減	—	▲ 3,232	▲ 4,137	▲ 27,729	▲ 732	11,223	7,782	2,383	—
	対前年比	—	95.7%	94.2%	58.7%	98.1%	129.0%	115.6%	104.1%	—
評価指標⑧	農業者トレーニングセンターの延べ利用者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	16,016	15,792	15,067	9,267	9,943	9,095	10,732	14,128	—
	対前年増減	—	▲ 224	▲ 725	▲ 5,800	676	▲ 848	1,637	3,396	—
	対前年比	—	98.6%	95.4%	61.5%	107.3%	91.5%	118.0%	131.6%	—

評価指標⑨	スポーツ交流館の延べ利用者数										
	定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値(人)	9,706	5,303	7,609	11,571	9,592	10,310	11,519	10,509	—
		対前年増減	—	▲ 4,403	2,306	3,962	▲ 1,979	718	1,209	▲ 1,010	—
対前年比		—	54.6%	143.5%	152.1%	82.9%	107.5%	111.7%	91.2%	—	
評価指標⑩	いきいきクラブ(サフォークジム)・出張サフォークジム・サフォーク元気クラブの延べ参加者数										
	定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値(人)	11,108	10,515	9,003	7,521	6,951	8,340	8,178	7,913	—
		対前年増減	—	▲ 593	▲ 1,512	▲ 1,482	▲ 570	1,389	▲ 162	▲ 265	—
対前年比		—	94.7%	85.6%	83.5%	92.4%	120.0%	98.1%	96.8%	—	
評価指標⑪	スポーツ協会の実施事業										
	定性	<p>士別市スポーツ協会では、健康・体力づくりサポート事業として、体組成測定や全身持久力測定を定期的 に実施し、その結果をもとにフォローアップを行うことで、市民の主体的な健康づくりへの取組につなげてきま した。</p> <p>また、企業サポート「個別運動プログラム」を実施し、働く世代の健康・体力づくりを継続的にサポートし てきました。</p>									
成果	<p>士別市民スポーツ意識調査（一般）では、一般の週1回以上のスポーツ・運動の実施率は、平成 29年度の32.6%から令和6年度には37.6%へと上昇し、5.0ポイントの増加となりました。</p> <p>これは、市民の健康意識の高まりとともに、スポーツや運動に取り組む動きが広がっていること を示しており、大きな成果です。</p> <p>また、総合体育館などのトレーニング施設の個人利用が増加していることから、個々の目的に 合わせてスポーツに取り組む市民が増えていることを示しています。</p> <p>一方で、スポーツの楽しみ方が多様化する中で、競技性の高いイベントでは参加者数の減少傾向 が続きます。</p>										評価
考察	<p>スポーツ庁の調査によると、20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率は52.5%であり、本市の 37.6%はこれを下回っています。</p> <p>市民のスポーツ意識は確実に高まっているものの、全国平均との差が依然として見られます。</p> <p>市民スポーツ意識調査(一般)では、スポーツへに関心は「競技志向」「健康志向」「交流志向」 と分かれており、個人の生活や目的に合わせて気軽に運動できる環境の充実していくことが必要で す。</p> <p>また「仲間がいない」「プログラムがない」といった意見も寄せられており、スポーツの「楽し さ」や「つながり」を感じられるような継続的に参加できる仕組みをどう展開していくかが課題で す。</p>										今後の 方向性
											改善 継続

取組内容 連携・協働の促進			
第2期 事業展開 (計画書P4)	家庭・学校・地域が連携・協力し、スポーツを通じて健康・体力づくりなどの様々な課題に対応するため、士別市や士別市教育委員会はもとより、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、関係団体などの連携・協働を進めます。		
評価指標①	連携・協働の取組		
	定性	<p>士別市スポーツ協会では、企業との連携を進め、職員の健康づくりを支援する取組を実施してきました。</p> <p>また、令和5年度からは、「スポーツ・健康福祉連携事業」を士別市スポーツ協会と市健康福祉部局が連携し、高齢者や幼児への運動教室を開催してきました。</p> <p>さらに、スポーツ推進委員や各競技団体が、スポーツウィークやオリパラフェスティバル、各競技会などの運営に協力するほか、各地区では総合型地域スポーツクラブが多様なスポーツ活動を実施し、市民が気軽にスポーツに触れる機会の創出や、スポーツ参加を支える取組を進めてきました。</p>	
成果	<p>士別・朝日両スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ、地域などの連携・協働を通じ、子どもから高齢者まで幅広い世代がスポーツに親しむ機会を提供することができました。</p> <p>また、スポーツ推進委員や各競技団体がイベント運営を担い、市民のスポーツへの関心や理解の拡大に寄与しました。</p> <p>これらの取組は、行政、関係団体などがそれぞれの役割を担いながら連携を深め、地域全体でスポーツ振興に取り組んできた成果です。</p>		評価
			一部 達成
考察	<p>今後は、医療、福祉、スポーツの分野がより密接に連携し、健康づくりの視点を共有できる仕組みを構築していくことが重要です。</p> <p>また、市内の様々なスポーツ活動を支えるためには、行政や関係団体、地域、学校、総合型地域スポーツクラブ等が連携・協働して、スポーツの場や機会を継続的に創出していくことが課題です。</p>		今後の 方向性
			継続

取組内容 学校体育の充実										
第2期 事業展開 (計画書P4)	生涯を通じた豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てるため、スポーツ施設やスポーツ用具などの整備とともに「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえた授業などの改善に努めます。									
評価指標①	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 小学5年男子 総合評価A+B+Cが占める割合									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(%)	60.8	67.1	49.9	—	72.8	59.4	73.9	60.3	—
	対前年増減	—	6.3	▲ 17.2	—	22.9	▲ 13.4	14.5	▲ 13.6	—
	対前年比	—	110.4%	74.4%	—	145.9%	81.6%	124.4%	81.6%	—
評価指標②	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 小学5年女子 総合評価A+B+Cが占める割合									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(%)	63.0	70.7	66.0	—	77.2	74.2	75.8	62.0	—
	対前年増減	—	7.7	▲ 4.7	—	11.2	▲ 3.0	1.6	▲ 13.8	—
	対前年比	—	112.2%	93.4%	—	117.0%	96.1%	102.2%	81.8%	—
評価指標③	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 中学2年男子 総合評価A+B+Cが占める割合									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(%)	75.9	72.7	69.4	—	70.1	54.2	83.1	69.2	—
	対前年増減	—	▲ 3.2	▲ 3.3	—	0.7	▲ 15.9	28.9	▲ 13.9	—
	対前年比	—	95.8%	95.5%	—	101.0%	77.3%	153.3%	83.3%	—
評価指標④	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 中学2年女子 総合評価A+B+Cが占める割合									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(%)	90.0	83.9	94.2	—	82.2	78.8	70.2	89.7	—
	対前年増減	—	▲ 6.1	10.3	—	▲ 12.0	▲ 3.4	▲ 8.6	19.5	—
	対前年比	—	93.2%	112.3%	—	87.3%	95.9%	89.1%	127.8%	—
評価指標⑤	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 全国・北海道の平均を上回った回数									
定性	8年間（7回の調査）									
	全国平均を上回った回数：小学5年生男子4回、女子3回、中学2年男子6回、女子4回 北海道平均を上回った回数：小学5年生男子3回、女子2回、中学2年男子6回、女子7回									
成果	全体として、年度により変動はあるものの、児童生徒の体力水準は安定しており、全国および北海道平均と比較しても概ね同水準を維持しています。 特に中学生においては全国平均を上回る年が多く、学校体育を中心とした体力向上の取組が一定の成果を上げています。 また、各学校では結果を踏まえ、D・E評価の児童生徒を対象に基本的な運動能力の向上をめざす取組を計画的に進めました。									評価
										概ね達成
考察	体力水準は全体として維持されているものの、市民スポーツ意識調査(子ども)では、運動が「少し嫌い」「嫌い」を合すると12%前後にのぼり、特に女子は運動への苦手意識が強い傾向が見られます。 学校体育の取組に加えて、地域スポーツ活動との連携を深め、学校外でも子どもたちが継続的に運動に親しめる仕組みづくりを進める必要があります。									今後の方向性
										継続



第3章 競技スポーツの推進

取組内容 選手育成を支える指導者の確保											
第2期 事業展開 (計画書P5)		競技スポーツの推進には、選手育成の前提として、それを支える指導者が不可欠であり、部活動における幅広い指導者確保に努めるとともに、指導者能力向上のため、専門知識や技術などが習得しやすい環境づくりに努めます。									
評価指標①		中学校の部活動数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	実績値(部)	26	25	24	21	20	20	18	17	16	
	対前年増減	—	▲1	▲1	▲3	▲1	0	▲2	▲1	▲1	
	対前年比	—	96.2%	96.0%	87.5%	95.2%	100.0%	90.0%	94.4%	94.1%	
評価指標②		中学校の部活動指導員登録数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	実績値(部)	—	4	15	11	13	12	12	18	16	
	対前年増減	—	—	11	▲4	2	▲1	0	6	▲2	
	対前年比	—	—	375.0%	73.3%	118.2%	92.3%	100.0%	150.0%	88.9%	
評価指標③		土別スポーツ少年団の登録数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	実績値(部)	13	12	12	12	11	9	8	7	7	
	対前年増減	—	▲1	0	0	▲1	▲2	▲1	▲1	0	
	対前年比	—	92.3%	100.0%	100.0%	91.7%	81.8%	88.9%	87.5%	100.0%	
評価指標④		指導者の養成									
定性	土別市スポーツ協会では、継続して競技力アップトータルサポート事業を実施するとともに、各競技団体が行う指導者養成事業を支援してきました。 また、令和5年度から青少年運動能力向上事業を実施し、バルシューレC級指導者養成講習会を開催、幼少期からの運動指導に携わる人材の育成を進めました。(14名参加) さらに、北海道の事業を活用してオリンピックを講師に招いた「コーチ・ペアレンツ講習会」を開催し、指導者や保護者が一体となって選手を支える意識の醸成を図りました。(15名参加)										
成果	少子化の進行に伴い中学校の部活動数は減少しているものの、中学校部活動拠点校方式の活用や部活動指導員の配置により、生徒の活動の場を確保してきました。 また、土別市スポーツ協会や各競技団体などが、継続して指導者の育成に取り組み一定の成果を上げました。 特に、土別市スポーツ協会が実施する幼少期から基礎運動能力を育む取組が始まったことは、将来的な選手育成の基盤づくりとして大きな成果です。									評価	
										概ね達成	
考察	中学校部活動の地域展開に関するアンケート調査では、担当教員のうち、71.4%が担当する種目の経験がないと回答しており、専門的な指導体制の構築が課題です。 市民スポーツ意識調査（子ども）では、運動やスポーツをしていない理由として「好きなスポーツがない」との回答が各学年で12%前後みられ、子どもが多様な種目に触れる機会の充実が課題です。 また、同調査では、「体の痛みを感じている」子どもが全体の7割にのぼっており、子どもたちの成長に寄り添って指導できる知識を持つ人材の育成が重要です。 今後は、地域部活動の展開を契機として、学校・競技団体・地域が連携しながら指導体制を構築し、継続的に指導者の能力向上を図る仕組みづくりが課題です。									今後の方向性	
										改善継続	



取組内容   トップアスリートとの交流機会などの提供										
第2期 事業展開 (計画書P5)	スポーツ合宿やスポーツイベントを通して、本市には世界で活躍しているトップアスリートや今後の活躍が期待される選手が数多く訪れており、そうした選手との交流や直接指導を受ける機会の提供に努め、地元選手の育成を進めます。また、合宿チームなどによるスポーツ教室を継続的に実施していきます。									
評価指標①	小学校実業団陸上教室(運動能力向上事業)の参加人数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	—	—	—	48	112	122	108	110	104
	対前年増減	—	—	—	—	64	10	▲ 14	2	▲ 6
	対前年比	—	—	—	—	233.3%	108.9%	88.5%	101.9%	94.5%
評価指標②	教室等の実業団の協力チーム数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(チーム)	—	—	—	1	4	5	5	6	5
	対前年増減	—	—	—	—	3	1	0	1	▲ 1
	対前年比	—	—	—	—	400.0%	125.0%	100.0%	120.0%	83.3%
評価指標③	オリンピック教室(令和元年度までは、JOCオリンピック教室)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	135	126	154	125	143	141	111	99	143
	対前年増減	—	▲ 9	28	▲ 29	18	▲ 2	▲ 30	▲ 12	44
	対前年比	—	93.3%	122.2%	81.2%	114.4%	98.6%	78.7%	89.2%	144.4%
評価指標④	オリンピック団体との提携									
定性	令和元年度にはJOCとのパートナー都市協定を締結しました。 令和3年度には北海道オール・オリンピックズとの包括連携協定を締結しました。									
評価指標⑤	子どもを対象とした教室や講習会の実施									
定性	平成30年度および令和元年度には、陸上短距離のオリンピック高平慎士氏を講師に招いて、各学校の授業の一環として陸上教室を実施しました。 令和5年度には、北海道の事業を活用してバスケットボールのオリンピック矢代直美氏を講師に迎え、バスケットボール教室を開催しました。(56名参加)									
成果	学校授業の一環として、小学生を対象とした実業団陸上教室や中学生を対象としたオリンピック教室を継続的に実施してきました。 また、「合宿の里士別」の特性を生かし、実業団選手による指導を継続できていることは本市の強みです。 JOCや北海道オール・オリンピックズと連携し、トップアスリートと交流できる体制が整いました。 トップアスリートの体験を通して、子どもたちにスポーツの楽しさや努力の大切さ、夢を持つことの意義を伝える貴重な機会を提供できたことは大きな成果です。									評価
										達成
考察	トップアスリートとの交流は、子どもたちに夢や目標を持つきっかけを与えるとともに、地域全体のスポーツ意識を高める効果があります。 今後も、学校教育との連携を深めながら、トップアスリートや実業団チームとの継続的な交流の場を確保していくことが重要です。 トップアスリートの経験を「地域における学習の資源」として活かし、子どもたちがスポーツを通じて成長し続けられる環境づくりの推進が課題です。									今後の方向性
										継続

取組内容 選手育成体制の構築										
第2期 事業展開 (計画書P6)	指導者や選手の育成に計画的に取り組む競技団体などの活動を支援するとともに、団体間の連携・情報共有の推進はもとより、保護者の理解やサポートを促す取り組みをはじめ、活躍が目覚ましい選手の顕彰に取り組めます。									
評価指標①	児童・生徒大会参加交通費助成事業の利用件数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(件)	58	60	46	14	29	28	17	14	—
	対前年増減	—	2	▲ 14	▲ 32	15	▲ 1	▲ 11	▲ 3	—
	対前年比	—	103.4%	76.7%	30.4%	207.1%	96.6%	60.7%	82.4%	—
評価指標②	士別市文化・スポーツ大会等参加奨励の交付件数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(件)	47	84	107	11	21	35	39	42	—
	対前年増減	—	37	23	▲ 96	10	14	4	3	—
	対前年比	—	178.7%	127.4%	10.3%	190.9%	166.7%	111.4%	107.7%	—
評価指標③	中学校生徒対外行事参加奨励事業の交付件数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(件)	29	31	35	7	28	28	28	43	—
	対前年増減	—	2	4	▲ 28	21	0	0	15	—
	対前年比	—	106.9%	112.9%	20.0%	400.0%	100.0%	100.0%	153.6%	—
評価指標④	士別市社会貢献表彰(栄誉：スポーツ活動)の受賞件数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	0	0	0	1	1	0	0	1	3
	対前年増減	—	0	0	1	0	▲ 1	0	1	2
	対前年比	—	—	—	皆増	100.0%	0.0%	—	皆増	300.0%
評価指標⑤	習い事応援タクシー(実証実験事業)の利用人数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(件)	—	—	—	—	—	506	732	1,344	—
	対前年増減	—	—	—	—	—	—	226	838	—
	対前年比	—	—	—	—	—	—	144.7%	265.6%	—
評価指標⑥	スポーツ協会の実施事業									
定性	士別市スポーツ協会が表彰事業や全国大会選手奨励事業を継続して実施しました。									
	また、士別・朝日両スポーツ協会が、少年団や競技団体と連携して育成支援を実施しました。									
成果	<p>士別・朝日両スポーツ協会が、競技団体・少年団への選手の育成に関する支援を継続するとともに、全国大会出場者への奨励を実施するなど、選手の活動を支える体制が整えられています。</p> <p>また、市では、選手の競技活動を支援する交通費助成や奨励金交付、表彰制度を継続的に実施してきました。</p> <p>習い事応援タクシーの実証試験により、子どもたちの移動手段を確保することでスポーツ活動への参加機会が広がりました。</p>									評価
										概ね 達成

考察	<p>市民スポーツ意識調査（一般）では、「士別市から強い選手が育つことを期待する」との回答が75.3%を占めており、多くの市民が競技力向上への取組を望んでいます。</p> <p>また、同調査（子ども）においても、「勝ちたい」「上手になりたい」と答えた競技志向の子どもが約4割にのぼっており、こうした結果を踏まえると、「挑戦できる環境づくり」を視野に入れた施策が求められています。</p> <p>大会参加支援や移動確保の継続は、選手育成を支える上で必要かつ重要な取組です。一方で、部活動の地域展開の協議が始まっており、その中で育成支援の方向性を明確することが急務です。</p> <p>今後は、スポーツ協会・競技団体・保護者・学校・行政が一体となり、選手の継続的な育成支援と地域スポーツの持続可能な体制づくりを進めていくことが課題です。</p>	今後の 方向性
		改善 継続

## 第4章 スポーツ合宿の里づくり・スポーツイベントを通じた地域の活性化

### 取組内容 スポーツ合宿の聖地創造

第2期 事業展開 (計画書P7)	陸上やスキー合宿をはじめ、宿泊収容能力の拡大やスポーツ環境の充実と平行して、障がい者スポーツや新たな種目の招致、年間を通した合宿受け入れを実現し、道内外はもとより、海外に対しても日本におけるスポーツ合宿の聖地として知られるよう取り組みを進めます。									
評価指標①	スポーツ合宿・大会延べ人数(詳細別紙)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	23,090	24,223	20,663	10,830	13,777	15,289	21,177	18,827	—
	対前年増減	—	1,133	▲ 3,560	▲ 9,833	2,947	1,512	5,888	▲ 2,350	—
	対前年比	—	104.9%	85.3%	52.4%	127.2%	111.0%	138.5%	88.9%	—
評価指標②	スポーツ合宿・大会延べチーム数(詳細別紙)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(チーム)	463	487	425	196	233	353	415	351	—
	対前年増減	—	24	▲ 62	▲ 229	37	120	62	▲ 64	—
	対前年比	—	105.2%	87.3%	46.1%	118.9%	151.5%	117.6%	84.6%	—
評価指標③	障がい者スポーツ合宿延べ人数(スポーツ合宿延べ人数の内数)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	0	26	0	0	0	0	32	0	—
	対前年増減	—	26	▲ 26	0	0	0	32	▲ 32	—
	対前年比	—	皆増	0.0%	—	—	—	皆増	0.0%	—
評価指標④	障がい者スポーツ合宿延べチーム数(スポーツ合宿延べチーム数の内数)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(チーム)	0	1	0	0	0	0	1	0	—
	対前年増減	—	1	▲ 1	0	0	0	1	▲ 1	—
	対前年比	—	皆増	0.0%	—	—	—	皆増	0.0%	—
評価指標⑤	海外スポーツ合宿延べ人数(スポーツ合宿延べ人数の内数)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	1,241	1,043	584	0	221	0	850	217	—
	対前年増減	—	▲ 198	▲ 459	▲ 584	221	▲ 221	850	▲ 633	—
	対前年比	—	84.0%	56.0%	0.0%	皆増	0.0%	皆増	25.5%	—
評価指標⑥	海外スポーツ合宿延べチーム数(スポーツ合宿延べチーム数の内数)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(チーム)	10	10	4	0	1	0	2	2	—
	対前年増減	—	0	▲ 6	▲ 4	1	▲ 1	2	0	—
	対前年比	—	100.0%	40.0%	0.0%	皆増	0.0%	皆増	100.0%	—
評価指標⑨	ナショナルチームの合宿									
定性	令和3年度には、東京オリンピックの事前合宿としてドイツナショナルチーム(長距離・競歩種目)が合宿しました。									
	令和6年度には、パリオリンピックの事前合宿として台湾ナショナルチーム(ウエイトリフティング)が合宿しました。									

成果	<p>コロナ禍により一時的に大幅な減少が見られたものの、近年は回復傾向にあり、コロナ禍前の水準におおむね戻ってきています。ただし、目標としていた24,800人には達しませんでした。</p> <p>北海道スポーツ合宿実態調査においては、令和4～6年度の3か年連続で北海道内2位の受入実績を維持しており高い成果を維持しています。</p> <p>海外チームの合宿では、ドイツや台湾のナショナルチーム等を受け入れ、海外合宿の実績を重ねることができました。</p> <p>また、合宿全体の約75%を陸上長距離とスキーが占めており、他の競技種目の継続的な受け入れの展開には至っていません。</p>	評価
		一部達成
考察	<p>市民スポーツ意識調査（一般）では、合宿の受け入れは地域にもたらす価値が市民と共有され、今後の取り組みにおいても「拡大または維持」が67.8%と継続した取組を望んでいることが確認されました。</p> <p>合宿の中心である陸上長距離とスキーは安定的に推移しており、引き続き確保していくことが重要である一方で、陸上・スキー合宿以外の閑散期に他の競技種目の招致を広げていけるかが今後の課題です。</p> <p>また、少子化の影響により、高校生以下の合宿人口の減少が見込まれる中においても、北海道における合宿は、高校生が最も多く、次いで大学生、小学生の順となっており、効果的な招致を進めることが課題です。</p> <p>さらに、宿泊施設の高齢化による事業継承や施設の改修に伴う課題があり、持続可能な合宿体制の構築を検討していくことが求められます。</p>	今後の方向性
		改善継続

取組内容 スポーツイベントによる地域の活性化										
第2期 事業展開 (計画書P8)	<p>スポーツイベントの魅力を向上させ、スポーツツーリズムの推進による交流人口拡大を図るとともに、イベントを通じた地域資源のPRなどによる地域経済の活性化をはじめ、すべての市民の幅広い交流を通じた地域コミュニティの維持・再生など、様々な面で地域活性化につながるようスポーツイベントの充実を図ります。</p> <p>トップレベルの競技を身近に観戦する機会を市民に提供するとともに、さらなる交流人口拡大による地域活性化を図るため、全国・国際レベルの競技大会の招致を進めます。</p>									
評価指標①	サフォークランド士別ハーフマラソン大会の参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	1,783	1,861	1,704	—	—	1,726	1,667	1,797	1,629
	対前年増減	—	78	▲ 157	—	—	22	▲ 59	130	▲ 168
	対前年比	—	104.4%	91.6%	—	—	101.3%	96.6%	107.8%	90.7%
評価指標②	オリパラフェスティバルの参加者数(2019まではオリンピックデーラン)									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	562	836	789	—	—	278	219	277	262
	対前年増減	—	274	▲ 47	—	—	▲ 511	▲ 59	58	▲ 15
	対前年比	—	148.8%	94.4%	—	—	35.2%	78.8%	126.5%	94.6%
評価指標③	ホクレン・ディスタンスチャレンジ士別大会の参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	98	196	263	224	177	186	295	255	201
	対前年増減	—	98	67	▲ 39	▲ 47	9	109	▲ 40	▲ 54
	対前年比	—	200.0%	134.2%	85.2%	79.0%	105.1%	158.6%	86.4%	78.8%
評価指標④	サマージャンプ朝日大会の参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	78	71	77	—	110	100	110	—	106
	対前年増減	—	▲ 7	6	—	33	▲ 10	10	—	▲ 4
	対前年比	—	91.0%	108.5%	—	142.9%	90.9%	110.0%	—	96.4%
評価指標⑤	サマーコンバインド朝日大会の参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	102	111	114	—	89	114	81	—	62
	対前年増減	—	9	3	—	▲ 25	25	▲ 33	—	▲ 19
	対前年比	—	108.8%	102.7%	—	78.1%	128.1%	71.1%	—	76.5%
評価指標⑥	ジュニアサマージャンプ朝日大会の参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	98	98	101	—	72	74	74	—	49
	対前年増減	—	0	3	—	▲ 29	2	0	—	▲ 25
	対前年比	—	100.0%	103.1%	—	71.3%	102.8%	100.0%	—	66.2%
評価指標⑦	合宿の里士別ジュニアサマージャンプ交流大会の参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	37	54	47	42	33	40	35	—	22
	対前年増減	—	17	▲ 7	▲ 5	▲ 14	7	▲ 5	—	▲ 13
	対前年比	—	145.9%	87.0%	89.4%	70.2%	121.2%	87.5%	—	62.9%

評価指標⑧		朝日ノルディックスキー大会の参加者数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	実績値(人)	395	395	397	—	344	347	324	261	—	
	対前年増減	—	0	2	—	▲ 53	3	▲ 23	▲ 134	—	
	対前年比	—	100.0%	100.5%	—	86.6%	100.9%	93.4%	66.1%	—	
評価指標⑨		全国・全道規模等の競技会の招致									
定性		令和４年度には全国高校総体のプレ大会に位置づけた全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会を開催しました。									
		令和５年度に全国高校総体ウエイトリフティング競技を開催しました。									
		また、全道規模のウエイトリフティング競技会や軟式野球大会、サッカー大会の開催など、多様な種目が本市を会場に開催されました。									
		実業団陸上チームをターゲットにした合宿の里士別記録会を令和５年度に開催しました。									
		令和７年度には全日本学生スキー選手権大会が開催される予定です。									
成果		コロナ禍で中止となった大会もありましたが、令和４年度以降は多くの大会が再開され、交流人口の拡大が図られました。									評価
		全国規模の大会では、令和４年度に全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会、令和５年度に全国高校総体ウエイトリフティング競技を開催し、関係団体や地域の協力体制のもとで成功裡に終わることができ、これは大きな成果でありました。									達成
	また、新たな取り組みとして、実業団チームのニーズに対応した「合宿の里士別記録会」を開催しましたが、継続には至りませんでした。										
	令和６年度はジャンプ台の改修によりサマージャンプ大会等が中止となり、競技施設の整備が大会開催に影響しました。										
考察		市民スポーツ意識調査（一般）では、「スポーツイベントに期待すること」の回答として、魅力発信(24.3%)と賑わい(21.3%)を期待していることが確認されました。									今後の方向性
		今後は、地域に根ざした大会の継続開催を図るとともに、参加者や市民が楽しめる魅力を充実していくことが課題です。									継続
	また、合宿チームや参加選手のニーズを把握し、開催時期や内容を工夫することで、参加者の増加や交流人口の拡大につなげていくことが重要です。										



取組内容 地域全体での招致活動などの推進		
第2期 事業展開 (計画書P8)	スポーツ合宿やスポーツイベントの招致・運営には、行政のみならず、輸送や宿泊をはじめとする様々な業種の情報共有と連携が不可欠となっており、スポーツコミッションとしての招致活動など、地域全体で招致活動を行うことができる体制をめざします。 また、積極的な中央競技団体などへの招致活動をはじめ、SNSを活用した合宿チームの紹介や交流などを通じて、市民と合宿選手との関わりを深めるとともに、合宿選手への歓迎や応援体制の充実を図りながら、市民総意による取り組みを進めます。	
	評価指標①	招致活動
	定性	合宿の里士別推進協議会、合宿受入れホテル・旅館、市が連携して招致活動を行いました。 1月の箱根駅伝・ニューイヤー駅伝、3月の宮様スキー大会国際競技会、9月の全日本実業団対抗陸上競技選手権大会、10月の箱根駅伝予選会・日本トライアスロン選手権・プリンセス駅伝、11月のクイーンズ駅伝などの機会を活用し招致活動を実施しました。 また、各競技団体やJOCなどの中央競技団体を訪問して意見交換を実施し、継続的な合宿招致と関係構築を図りました。
	評価指標②	交流活動
	定性	各実業団陸上チームの協力を得て、令和2年度から小学校の授業で実業団陸上教室を開催しました。 【R2】ダイハツ【R3】ダイハツ・ホクレン・YKK【R4】ダイハツ・日本郵政・ホクレン・中国電力【R5】ダイハツ・日本郵政・YKK・中国電力【R6】ダイハツ・日本郵政・YKK・中国電力・トヨタ【R7】ダイハツ・日本郵政・ユニバーサルエンターテインメント・中国電力 また、令和4年度からは、実業団選手による「JoyRun交流会」を開催し、市民とのふれあいの機会を設けました。 【R4】コニカミノルタ【R5】積水化学【R6】ユニバーサルエンターテインメント【R7】岩谷産業 全日本実業団連合の合宿では、スタッフや選手との交流会を実施しました。 SNSや市広報紙、新聞等を活用し、合宿チームの活動を紹介するなど、市民の理解と関心を高める取組を行いました。
成果	地域全体が一体となった招致活動を継続し、中央競技団体や実業団との関係性を維持できました。 市民スポーツ意識調査（一般）では、「合宿受け入れは良いこと」との回答が81.0%あり、肯定的な評価が大半を占め一定の成果が確認されました。 また、実業団陸上チームの協力により、市民や児童との交流事業を継続して実施でき、合宿をとおした市民総意による取組に近づけました。	評価
		一部 達成
考察	今後は、陸上やスキー以外の競技種目の春・秋の合宿閑散期への招致拡大を図ることが課題です。 また、市民スポーツ意識調査（一般）では、「情報をもっと発信してほしい」との回答が26.4%あり、取組の“見える化”と周知の充実が求められています。 合宿チームとの交流事業については、合宿チームのトレーニング等を考慮しながら、継続的に実施できる環境を整えることが必要です。	今後の 方向性
		改善 継続

取組内容 スポーツを通じた海外との交流										
第2期 事業展開 (計画書P8)	スポーツ交流を契機とした地域活性化はもとより、多様性を尊重する心を育む意味からも、ホストタウンの推進など、「世界」とつながる取り組みを進め、2020年東京大会のオリンピックレガシーを継承していきます。									
評価指標①	海外スポーツ合宿延べ人数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(人)	1,241	1,043	584	0	221	0	850	217	—
	対前年増減	—	▲198	▲459	▲584	221	▲221	850	▲633	—
	対前年比	—	84.0%	56.0%	0.0%	皆増	0.0%	皆増	25.5%	—
評価指標②	海外スポーツ合宿延べチーム数									
定量	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	実績値(チーム)	10	10	4	0	1	0	2	2	—
	対前年増減	—	0	▲6	▲4	1	▲1	2	0	—
	対前年比	—	100.0%	40.0%	0.0%	皆増	0.0%	皆増	100.0%	—
評価指標③	交流活動									
定性	平成29、30年度には台湾とのウエイトリフティング競技の交流を行い、令和元年度には東京オリンピックの台湾ホストタウンに登録されました。									
	また、令和3年の東京オリンピックの事前合宿で、ドイツナショナルチーム（長距離・競歩種目）が士別市で合宿を行い、宿舎からリモート形式による小学生との交流会を実施しました。									
成果	東京オリンピックに向けたホストタウン事業や事前合宿の受け入れを通じて、海外選手団との交流や市民とのふれあいの機会を創出することができました。									評価
	特にドイツナショナルチームの合宿では、児童とのオンライン交流を実施するなど、コロナ禍においても新たな交流手法を取り入れた取組を行いました。									一部 達成
一方で、コロナ禍の影響により、海外チーム合宿や交流事業の継続が困難となり、ホストタウンとしての活動が途絶える結果となりました。										
考察	海外とのスポーツ交流は、地域の魅力発信に大きく寄与する一方で、継続的な関係の維持が難しい面があります。									今後の 方向性
	今後は、過去に交流のあった国や地域とのつながりから模索していくことが考えられます。									統合・ 包含

## 第5章 スポーツ環境の充実

取組内容 生涯スポーツ・競技スポーツを支える施設などの整備		
第2期 事業展開 (計画書P9)	<p>スポーツ施設の運営にあたっては、市民のスポーツ活動への意欲を損なうことのないよう、最適化、効率化、長寿命化に向けた総合的な検討を行うとともに、市民や団体などとの連携・協働による施設管理に努めます。</p> <p>また、企業版ふるさと納税などの仕組みを活用するなど、民間企業と連携したスポーツ施設の整備や維持・管理をはじめ、各スポーツ施設でWi-Fi環境を活用した指導を行える環境の整備を検討します。</p>	
評価指標①	スポーツ施設の整備実績	
	定性	<p>令和5年度に朝日農業者トレーニングセンターの床面改修を実施しました。</p> <p>令和6年度に朝日三望台シャンツェの全面改修を実施しました。</p> <p>令和7～8年度にかけて陸上競技場の全面改修を進めています。</p> <p>総合体育館のトレーニングルームでは、利用者の意見やニーズを踏まえて機器の更新・拡充を随時行いました。</p>
評価指標②	スポーツ施設の通信環境の整備	
	定性	<p>Wi-Fi環境の整備を段階的に進め、総合体育館、農業者トレーニングセンター、日向スキー場の3施設に導入しました。</p>
評価指標③	スポーツ施設の最適化	
	定性	<p>公共施設マネジメント計画に基づき、スポーツ施設の最適化の方向性を検討し、施設の利用団体や関係者と協議を重ねてきました。</p>
成果	<p>スポーツ施設の長寿命化を見据え、計画的な改修や修繕を進め、安全性や利用満足度の向上につながったことは一定の成果です。</p> <p>また、公共施設マネジメント計画に基づく利用団体との協議を通じて、施設の最適化に向けた意見を伺い、考え方や方向性を共有しながら検討してきたところです。</p>	
	評価	
考察	<p>市民スポーツ意識調査（一般）では、「スポーツ施設で改善が必要な点」の回答として、老朽化施設の修繕(32.4%)や種目別機器の充実(19.2%)、利用時間の拡大(10.0%)を求める意見が多く寄せられており、安全性の確保と利用環境の改善を両立させる取り組みを継続していくことが課題です。</p> <p>また、総合体育館は建築から50年を超えており、耐震性や安全性の確保を前提とした改築や大規模改修の検討が必要な段階にあり、市民や利用団体の意見を取り入れながら、利用しやすく持続可能な施設整備のあり方を検討していく必要があります。</p> <p>財源確保の観点からは、企業版ふるさと納税やネーミングライツなどの活用も選択肢とし、特に、市外からの利用が多い陸上競技場や三望台シャンツェのような施設に導入することも一つです。</p>	
	今後の方向性	
		継続

取組内容 既存資源を活用した「場」の充実				
第2期 事業展開 (計画書P9)	学校体育施設の開放拡大だけでなく、民間施設や駐車場などのオープンスペースを最少の整備によってスポーツに親しむ「場」とするなど、既存資源を活用した柔軟な「場」の提供に努めます。			
評価指標①	既存施設の利活用			
	定性	学校体育館の開放拡大及び民間施設やオープンスペースなどの新たな活用には至りませんでした。		
成果	<p>既存施設の利活用については、計画段階では学校体育施設や民間施設、公園などを幅広く活用することを目指していましたが、実際の展開はできませんでした。</p> <p>学校体育館の開放拡大は、管理負担から進めることができず、現状維持の運用にとどまりました。</p>			評価
				着手
考察	<p>市民スポーツ意識調査（一般）では、「スポーツや運動を始める(継続する)うえでの課題」で施設が不足との回答が13.2%あり、地域でスポーツに取り組める「場」をどのように確保していくかが大きな課題です。</p> <p>また、特に冬期間の屋内活動場所が不足している状況であり、既存施設の利用拡大などの協議を進めることは、地域スポーツの基盤づくりにおいて重要な要素です。</p>			今後の方向性
				統合・包含

取組内容 スポーツ合宿の聖地創造に向けた施設の整備			
第2期 事業展開 (計画書P10)	合宿者のニーズを踏まえた施設整備に留まらず、新たな種目・チームの招致に直結する競技施設の整備などにあたっては、民間活力の活用など、幅広い視点で取り組みを進めます。		
評価指標①	スポーツ施設の整備実績		
	定性	<p>令和5年度に朝日農業者トレーニングセンターの床面を木製床材から高い安全性と競技性を兼ね備えた長尺弾性塩ビシートに改修しました。</p> <p>令和6年度に朝日三望台シャンツェの全面改修を実施しました。</p> <p>令和7～8年度にかけて陸上競技場の全面改修を進めています。</p>	
成果	<p>朝日三望台シャンツェの全面改修により、練習環境の安全性と快適性が大きく向上しました。</p> <p>また、朝日農業者トレーニングセンターの床面改修により、安全性と競技性が高まり、トレーニング全体の質の向上につながりました。</p> <p>これらの改修は、選手やチームが安心して練習できる環境を提供することにつながり、合宿利用者からも高い評価を得ており、合宿地としての土別市の信頼性が一層高まったことは大きな成果です。</p>		評価
			概ね達成
考察	<p>施設の充実によって、全国や道内の競技チームが安心して合宿できる環境が整ってきています。今後は、こうした成果をいかに効果的に発信し、さらなる合宿招致へとつなげていくかが重要となります。</p> <p>今後も利用者の満足度や利便性を踏まえた改善を重ねることが、継続的な招致活動につながるものです。</p> <p>また、スポーツ合宿が地域にもたらす経済効果や地域への波及効果が見える化し、市民の理解を深めながら、持続的に合宿を受け入れられる環境づくりが必要です。</p>		今後の方向性
			統合・包含

取組内容 スポーツイベントの招致に向けた施設の整備			
第2期 事業展開 (計画書P10)	<p>国際大会や全国大会、プロスポーツの試合など、トップアスリートの競技を身近に観戦できる機会は、選手の育成につながるばかりではなく、「みる」スポーツ参画にもつながるものであることから、各スポーツ施設でのW i - F i 環境の整備を検討し、市内スポーツイベントの発信など、「みる」スポーツの機会創出に努めます。</p> <p>また、本市で開催されるスポーツイベント・大会日程を地元紙やS N Sなどを活用して情報発信を進めます。</p>		
	評価指標① スポーツ施設の通信環境の整備		
	定性	W i - F i 環境の整備を段階的に進め、総合体育館、農業者トレーニングセンター、日向スキー場の3施設に導入しました。	
成果	<p>通信環境の整備を進めたことで、スポーツイベント運営の効率化や情報発信の環境が整いました。</p> <p>また、Wi-Fi環境の整備により、施設利用者や来場者がデジタルツールを活用しやすくなり、利便性の向上につながりました。</p> <p>さらに、情報発信面では、ホームページやSNS、アプリ、新聞広告など複数の媒体を活用し、イベント周知の充実を図りました。</p> <p>特に、ホクレン・ディスタンスチャレンジ士別大会におけるYouTube配信は多くの視聴者を集め、全国的に注目を得る契機となりました。</p>		評価
			概ね達成
考察	<p>オンライン配信は、市民や全国のスポーツファンに士別市を発信する効果的な手段であり、今後も中央競技団体や大会主催者と連携し、配信内容の質や視聴者層の拡大を意識した取り組みを進めることが考えられます。</p> <p>一方で、利用者の少ないスポーツ施設には、通信環境が整っていない現状もあり、施設利用の状況に応じて検討が必要です。</p>		今後の方向性
			統合・包含

取組内容 スポーツを「ささえる」人材の育成										
第2期 事業展開 (計画書P10)	<p>スポーツ推進委員をはじめ、生涯スポーツやスポーツイベントを支える人材育成を推進するとともに、すべての市民が活躍する「場」の充実やこれらに携わる市民が活躍しやすい環境づくりに努めます。</p>									
評価指標①	サフォークランド土別ハーフマラソン大会の運営役員ボランティア数									
	項目	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
定量	実績値(人)	—	173	148	—	—	99	168	200	251
	対前年増減	—	—	▲ 25	—	—	▲ 49	69	32	51
	対前年比	—	—	85.5%	—	—	66.9%	169.7%	119.0%	125.5%
評価指標②	各スポーツ競技会・大会等の運営体制									
	定性	<p>各スポーツ競技会や大会等は、各競技団体の協力体制のもとで円滑に運営が行われ、競技役員を中心とした人材の確保が図られました。</p>								
成果	<p>スポーツイベントの開催にあたっては、競技役員のみならず、多くのボランティアが運営に参加し、大会や競技会の継続的な実施を支えています。</p> <p>本市でもっとも規模が大きい土別ハーフマラソン大会では、中学生から高齢者まで幅広い年代の市民が運営体制の一員として多く参加しており、特に個人申込は、平成30年度に比べると大幅に増加しています。</p> <p>市民のスポーツイベントへの関わりが参加や観戦にとどまらず、「ささえる立場」でスポーツに携わる機会が拡大していることは大きな成果です。</p>									評価
										概ね達成
考察	<p>人口減少が進むなかで、スポーツイベントをささえる人材を確保・育成していくことは、今後のイベント開催の継続性に大きな影響を与えることが想定されます。</p> <p>市民スポーツ意識調査（一般）では、「スポーツをサポートする活動」に「ぜひ参加したい」「興味がある」と回答した人が約20%にのぼっており、関心を持つ市民が参加しやすい情報発信や仕組みを整えることで、運営に関わる人材の裾野を広げていくことが、今後のスポーツ推進において重要な課題です。</p> <p>一方で人口減少が進む中で、近隣地域からのボランティア参加を得られるような受け入れ体制や連携の在り方について検討していくことも重要な視点の一つです。</p>									今後の方向性
										継続



取組内容 中央競技団体などとの連携の強化			
第2期 事業展開 (計画書P10)	本市のスポーツ関係者が、全国・全道レベルの競技団体運営などに携わることは、大会招致など本市におけるスポーツ施策の推進において極めて有益です。本市のスポーツ関係者が、中央競技団体の役員などとして活動しやすい環境づくりを進め、中央競技団体などとの連携を強化します。		
評価指標①	中央競技団体との連携		
	定性	<p>各競技団体やJOCなどの中央機関を訪問し、関係構築と情報交換を重ねながら連携の強化を図ってきました。</p> <p>特に、日本ウエイトリフティング協会とは継続的な連携を進めており、平成30年度から令和3年度まで同協会に市職員を派遣するなど、人的ネットワークの強化にも取り組んできました。</p>	
成果	<p>日本ウエイトリフティング協会との連携を継続的に進めてきたことにより、全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会及び全国高校総体ウエイトリフティング競技を士別市で開催することができました。</p> <p>大会運営において、同協会から多くの支援を受け、円滑な大会運営につながったことは大きな成果です。</p> <p>また、日本陸上競技連盟や日本実業団陸上競技連合との関係も継続しており、ホクレン・ディスタンスチャレンジの開催や男女長距離チームの合宿を毎年本市で実施するなど合宿誘致にも波及しています。</p>		評価
			概ね 達成
考察	<p>中央競技団体との連携は、全国的な大会招致や強化合宿の誘致など、多方面にわたる情報や支援を得るうえで極めて重要です。</p> <p>今後も、各競技団体や関係機関と継続的に情報を共有していく取組が必要です。</p>		今後の 方向性
			継続

取組内容 地域部活動への移行			
第2期 事業展開 (計画書P10)	<p>平成31（2019）年1月の中央教育審議会において、将来的に部活動を学校単位から地域単位の取り組みとし、学校以外が担うことも積極的に進めるべきと答申を受け、令和2（2020）年9月、国から部活動の指導などに意欲を有する地域人材の協力を得て、生徒にとって望ましい部活動の実現を目指すため、令和5（2023）年度以降、休日の部活動を段階的に地域移行する方針が示されました。</p> <p>このことから、本市の現状にあった地域部活動のあり方について、検討を進めます。</p>		
評価指標①	部活動の地域展開の動き		
	定性	<p>令和7年度に、土別市児童生徒スポーツ・文化活動地域展開検討協議会を令和6年12月に設立し、地域展開に向けた協議に着手しました。</p> <p>また、児童生徒および教員を対象にアンケートを実施し、現行の部活動に対する意識や地域での活動に対する実態を把握しました。</p>	
成果	<p>国の方針を注視しながら、地域展開に向けた段階的な準備を進めてきました。</p> <p>協議会の設立は当初予定より遅れましたが、関係機関の理解と協力を得ながら体制を整えることができました。</p> <p>協議会では、学校関係者、地域団体、保護者代表など多様な立場の意見を踏まえながら、地域における部活動運営のあり方や課題の整理を進めています。</p> <p>また、「土別市中学生のスポーツ・文化活動地域展開推進ガイドライン」を策定し、今後の地域展開に向けた方向性を明確にすることができました。</p>		評価
			着手
考察	<p>部活動への地域展開は、子どもたちの多様な活動機会を確保するための重要な取り組みである一方で、地域人材の確保や活動場所、運営体制など、解決すべき課題も多いです。</p> <p>今後は、ガイドラインをもとに地域の実情に応じた具体的な仕組みを検討し、学校と地域が連携しながら円滑な展開を進めることが求められます。</p> <p>また、今後も関係者間の対話を重ねながら持続的な体制構築を検討していくことが必要です。</p>		今後の方向性
			継続

## 第3期士別市スポーツ推進計画 骨子概要

### 第1章 計画の策定にあたって

#### 1. 計画策定の趣旨

- (1) 計画策定の目的
- (2) 計画の位置付け
- (3) 計画の期間

#### 2. 第2期計画の成果と課題

- (1) 生涯スポーツの推進
- (2) 競技スポーツの推進
- (3) スポーツ合宿の里づくり・スポーツイベントを通じた地域の活性化
- (4) スポーツ環境の充実

### 第2章

#### 1. 基本目標及び基本施策

- (1) 基本目標
- (2) 基本施策

■基本施策1 「～の推進」

■基本施策2 「～の強化」

...

#### 2. 具体的取組

- (1) 基本施策1

■具体的取組①

...

- (2) 基本施策2

■具体的取組①

...

### 第3章 計画の推進にあたって

- 1. 庁内横断的な連携
- 2. 関係団体等との連携